

ホクリクサンショウウオ南限個体群の生態解明と復活・保護

- 1 自治体名： 富山県
- 2 発表者名： 道野 靖貴 (MICHINO Kiyotaka)
(高岡龍谷高等学校 理科部)
- 3 活動名： ホクリクサンショウウオ南限個体群の生態解明と復活・保護
- 4 活動期間： 2006年4月～
- 5 活動場所： 南砺市福光地区
- 6 活動人数： 理科部部員のべ37名
- 7 活動をはじめた経緯

ため池堤防補修に伴う環境アセスメントでの生息生物検索にて本種の産卵が発見されたことから

8 発表要旨

ホクリクサンショウウオは富山県呉西と石川県北部の丘陵帯にしか生息しない絶滅危惧種である。これまで生息記録がない南限の新産地での卵のう発見だったため、まず、本種の生態を解明することに取り組んだ。産卵や幼生の繁殖状況、変態して上陸した後の幼体の成長や移動など各種調査を継続した。また、繁殖水域の水環境や生息地点の土壌環境、餌や天敵となる動物の調査を積み重ねて本種の生息条件を探った。

その結果、産卵水域から50メートル以内に陸上個体が生息していること、産卵から丸3年で性成熟することなどが分かった。また、幼体や成体が生活できる森林で豊かな土壌環境の中に、浅く緩やかな流れを保ち、産卵の2月から変態する8月まで涸れることのない水域の存在が、重要な生息条件だということが分かった。降水量や気温などさまざまな気象条件の年があり、水域でつながる「メタ個体群」の成立が鍵だということも分かってきた。

産卵調査において、2006年の未受精卵3双の産卵を最後に絶滅した地点が見つかった。

そこで、解明できた本種の生態とその生息環境をもとに、性成熟するまでの3年連続で卵のうだけを移植する本種の復活を計画した。新たに設置していただいたビオトープへ2011年4月から卵のう移植を開始した。現在、その後の生息状況の観察や水質調査、生息動物調査を続けている。

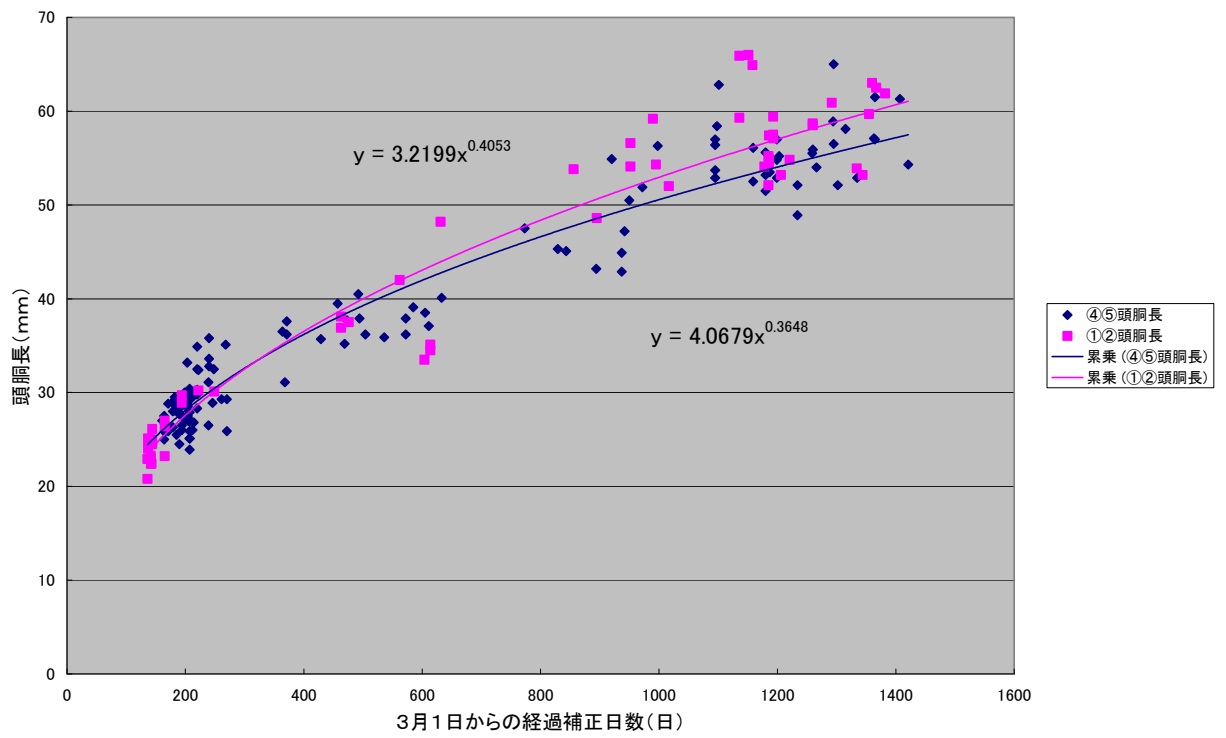
私たちは、豊かな森林の自然環境を背景に細々と生き残ってきたホクリクサンショウウオの生態の観察を通して、これからも社会生活での土地利用と生息生物の保護の兼ね合いを考えていきたい。



ホクリクサンショウウオ (雌)



本種南限個体群の各水系と産卵地点



水系別捕獲個体の頭胴長推移



移植ビオトープでの水質調査



順調に成長する幼生